

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173101245		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホーム ほたるの里		
所在地	埼玉県熊谷市八木田497-1		
自己評価作成日	令和 5年 3月 12日	評価結果市町村受理日	令和 5年 5月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 5年 3月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響は現在も多大にあります。制限付きの面会や、ご家族様との外出も基本的には病院への通院以外は禁止とさせていただきます。そんな状況の中でもできる限り季節感や行事を大切にしています。ご入居者様と一緒に冷汁や餃子などを作ったり、バーベキュー(焼き鳥)をしてみたりもしました。天気の良い日は外気浴や近所の散歩を行うようにしています。ひまわり畑に車で出かけて写真を撮ったりもしました。家庭的な温かい雰囲気作りを心がけています。ご入居者様の一人ひとりの思いや、身体状況・精神状態を把握して日々の安全・安心なケアに繋がられるようように、職員間で話し合い意見を出し合うようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念を基に管理者は「その人らしさ」を大切に考えている。生活環境、生活習慣、人間関係、個人的な空間、役割等、一人ひとりが違うように、それぞれの考え方や本人の思っていることを把握し、「その人らしさ」を活かす支援が大切と考えている。職員に利用者の生活歴を事前に伝えると共に理念に沿った支援をすることを伝えている。馴染みの関係継続では、コロナ禍で思うように実践できない中、郷土料理の「冷や汁」作りを取り入れたり、利用者の得意な料理である手作り餃子や手打ちうどん、利用者同士で味付けを話し合う等、個々の能力を活かした支援をおこなった。利用者の担当制を採って、4か月ごとに担当が代わる。そのため、職員は利用者全員を知ることができる。職員からの意見や提案は現状に即した介護計画に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示してあります。入職時や、申し送り・ミーティングの時にも会話の中に取り入れています。	「その人らしさ」を大切に考えている。利用者が何を考えているのか、どんな暮らし方をしてきたのかを聞き、事業所でもその人らしい暮らしができるよう、職員と共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には入会しているが、昨今の状況下で行事が行われないうえ、参加できていない。近所の散歩の時に挨拶を交わすようにしている。近所の農家さんとは付き合いがある。	コロナ禍のため地域行事が中止となり、思うような交流ができていないが、散歩途中や道の駅に買い物時には地域の人と挨拶を交わしている。近隣農家の人からお米や野菜をもらう等、良い関係を保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば、中学生の職場体験の受け入れ、認知症サポーター養成講座を開催しているが、本年も開催できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で、開催できておらず書面にて状況のお知らせをしている状況。	コロナ禍のため書面開催とし、議事録を地域包括支援センターに渡している。家族には3か月毎に「ほたるの里の状況」を請求書と一緒に送付している。現在は意見等の取り組みはできていない。	コロナ禍で運営推進会議を行うことができなかったため、4月以降は対面式で短時間、少人数での開催を試み、そこでの意見をサービスの向上に活かせることを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿いきがい課、大里広域介護保険課、地域包括支援センターや、生活福祉課等と連絡を取り合うようにしています。生活保護の方が2名入居されているので、ケースワーカーとの連絡を行うようにしています。	書類の提出や介護保険申請等、行政に直接出向いている。行政からくるメールを読んでわからないことがあると、すぐに電話で確認をしている。その都度連絡をとり合いながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則禁止している事を職員と常に話している。不適切なケアが身体拘束に繋がる事案になることも共有している。入社時にも研修をしている。	定期的に事例や、パソコンの配信動画を利用し身体拘束について研修をしている。自分では気付きにくい言葉の拘束については職員同士で注意をしよう環境である。普段から職員間で話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護研究・研修仙台センターの虐待防止マニュアルを使用して知識を深めている。また、入居者様のご家族や見学、入居相談時に話しやすい環境を作るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている入居者様がいるので、情報や知識を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約以前のインテーク時に入居者様及び、ご家族様の意向を十分に聞くようにしている。見学の際になるべく細かい内容の説明もするよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様にはさりげなく意見や要望を話していただけに、信頼関係の構築に努めている。その要望が管理者で判断し難い際には、開設者に相談し再度話し合いの機会を設けている。	面会や利用料の支払い時、または家族付き添いの受診時に意見や要望を聞くようにしている。今は特に運営に関しての意見はない。外出や散歩の希望等の個別の要望は支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い職員の意見を反映できるよう努めている。今までのように各ユニットミーティングでも意見が言えるような雰囲気作りも継続している。代表者を交えた管理者会議(リモート)も毎月行っている。	ユニットミーティングや6か月毎の個人面談で職員から意見を聞くようにしている。困っていることや購入してほしい物等の話がある。管理者は特に有給休暇に関しては、取りやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休みはできる限り取れるようにシフトを組んでいる。半日の勤務の職員も数名いる。有給休暇も取得しやすい環境作りを心掛けている。研修への参加や、資格取得を応援できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内のOJTは勿論、認知症基礎研修やグループホーム協議会主催のオンライン研修に参加して機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨今の状況下でなかなか交流が思うようにできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉だけでなく、表情や仕草等をよく観察し傾聴するようにしている。慣れない環境にきたばかりという事を職員が理解し、寄り添うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前の電話相談や見学の際に、ご家族様の困り事や要望を整理してご案内できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前の電話相談や見学の際に、ご家族様の困り事や要望を整理してご案内できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主役は入居者様である事を念頭におき、職員が中心にならないように側面からの支援を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	専門職だからできることは当然行うが、ご家族様にしかできない事は話し合いをして、一緒に協力しながら支援できるようなケアプランを作成するように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来であれば面会や外出も可能でしたが、現在は無理な状況が続いている状態なので支援ができていません。	コロナ禍のため外出や家族以外の馴染みの人との交流ができないが、地域の食として馴染みのある冷や汁を作ったり、利用者の得意な料理と一緒に作り、味付けをしてもらおう等、今できることで支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが暮らし方、価値観が違うため色々な想定ができるように柔軟に対応している。孤立しないように職員が仲介するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も、ご家族様との交流を大事にするよう努めている。お陰様で退去後でも連絡を下さる方や、来訪される方もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、何気ない会話からご本人様の意向を把握できるよう努めている。また、職員全体で情報を共有できるよう申し送りノートを活用している。	日常の何気ない会話や、散歩又は入浴時等、1対1の時の話を共有し個々の思いや意向を把握している。職員間に利用者の気持ちが自然と伝わっていき、個々の思いに沿った支援に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報の収集のみで終わりにせず、今までの暮らし方や生活歴などを、ご本人様やご家族様に確認するよう努めています。入居者様がどのような考え方をしているのかを考えるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をすることは勿論だが、その記録からどのような心身上の変化があったのか等の、現状把握にも努めている。日によって変わる場合もあることを理解するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングやケアカンファレンス時に、自由な意見を出してもらっている。色々な職種が、チームでケアをしていることを日頃から職員に伝えるように努めている。	3か月毎に職員の意見を聞き、見直しをしている。職員は担当制とし、4か月ごとに担当を変わること、利用者全員を把握することができ、意見やアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は担当者を決めずに記入する方法で行っている。(入居者ひとりずつの個人の生活記録) 職員が気が付いた事を記録し、申し送りをい情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護や医療機関の制度などについての質問等を受けることもあるので、わかる範囲でお答えするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居以前の地域資源を途切れないように、家族や近所の方との交流を継続できるよう支援をしたが、現状は厳しい状況。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の嘱託医だけではなく、以前のかかりつけ医の継続も可能である。(通院は基本的にご家族様対応)実際にそのような入居者様もいる。	2週間に1回、嘱託医による訪問診療がある。看護師は月4回利用者の健康管理をおこなっている。利用者の状態は生活記録に毎日記録し、共有をしている。緊急時は看護師がオンコールを行い相談ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも嘱託の看護師、ホームの看護師に相談をするよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	MSW、看護師と密に連絡をして調整している。面会や対面が難しい場合が多いので、書面や電話で状況を伝えるようにして情報の交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を契約前に行うように努めている。重度化した場合の本人、ご家族様意向を聞くようにしている。また意向の変更の有無を確認するよう心掛けている。	入居時に重度化や終末期の説明をしている。医療行為ができないことを理解してもらい、口から食事ができない、飲めなくなると、病院への入院を進めている。身体状況は毎月の報告書でも随時伝え、急な話にならないようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半数以上の職員が救命救急法と、AEDの使用方法に関する研修を受けている。管理者、看護師がオンコール体制にいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害防止マニュアルを作成している。年に2回の避難訓練(防災訓練)を行っている。避難経路の確認もしている。	年2回、昼夜を想定した火災訓練で利用者も消火器訓練に参加した。職員は2回の内1回は訓練に参加し、避難方法を身に付け、また災害時は各ユニットで協力体制ができている。日頃から備蓄をおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が自らの声のかけ方について、振り返る機会を設けるようにしている。職員の視点だけにならないように、入居者様の視点でプライバシーを考えられるように努めている。	日頃から管理者が手本となる行動をとり、職員はそこから学び、振り返るようにしている。介助が必要な利用者に対し関わり方や声かけに一線を引き、尊厳を守り、プライバシーを損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの思いや希望を、伝える事が困難な入居者様に対しては表情や仕草、言語以外でのコミュニケーションをはかり自己決定が行えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や業務が優先にならないように、まずは入居者様を第一に考えるようにして欲しい旨は常に伝えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容に関しては、職員の声かけや一部介助等で行っている。洋服選びなども職員と一緒にできるよう配慮しています。10年以上同じ美容師さんにカットをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にリクエストをしてもらったり、献立と一緒に考えたり、食事作りを手伝ってもらうこともある。季節の野菜や行事食、なるべく手作りの家庭的な料理を提供できるよう職員が頑張っている。	献立、食材の買い出し、調理まで事業所の職員がおこなっている。利用者は絹さやの筋とりをしたり、テーブル拭きをするなど、できることに参加をしている。人気メニューはカレーやハンバーグであり喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量に関しては、個々の生活記録に記入している。糖尿病や高血圧、心臓病や腎臓病の方に関しては医師と相談し、調節している。嚥下機能の低下や咀嚼に合わせてミキサー食等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方に関しては、声掛けを行いいただいている。介助が必要な方は職員が行い清潔の保持に努めている。口腔ケアの相談は、歯科医にその都度相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り便座に座り排泄ができるよう援助している。職員はこまめにトイレ誘導を行い、失禁を少なくできるよう努めている。何かしらのサインを見逃さないように、目配りをしている。	生活記録を参考に個々のトイレの間隔や、お腹を押さえるサイン等を見逃さずに、トイレの誘導をおこなっている。自身でトイレに行く人は昼夜とも見守りし、個々に合わせて、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳飲料や繊維質の多い食品を、食事の際などに取り入れて提供している。薬ばかりに頼らず、運動や体操を行い便秘予防になるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご高齢の方が多く、体調には十分配慮するようにしている。基本的には曜日は固定せず入浴ができる状態である。週に2回の頻度の方が多い。入浴剤を使用してリラックスや保温効果を高めている。	個々に3日おきに入浴日を設け、曜日や時間を固定せず、希望に合わせて柔軟に対応ができるように工夫をしている。毎日入浴剤を使用し、色のついたお湯と香り、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	比較的に落ち着かれている方が多い状況。個々の居室で午睡をされる方もいるが、居間にあるソファでウトウトされ休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、職員が確認できるように生活記録のファイルに綴っている。副作用や効果等を説明したり、変更があった際は必ず申し送りを行っており、周知を徹底するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近所への散歩や、適度な家事手伝いをしてもらったりして今までの暮らしがなるべく継続できるよう支援をしている。個人で新聞を購読されている方も数名いる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば感染対策をしたうえで、ご本人様と一緒にスーパーに買い物に行っている。ドライブやお花の見学等にも行き、気分転換をできるよう支援している。	コロナ禍でも、できる限り感染予防対策をして全員がひまわり畑にドライブに行き、気分転換を図った。希望に応じて道の駅まで一緒に買い物に行ったり、洋服を買いに行くなど、閉塞感を感じないように、支援をおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の現金を所持されている方も数名いらっしゃる。移動販売のパン屋さんが時折来る時は、ご自分で支払いをされる事もあるが、難しい方も多い状況。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は携帯電話を持ち込みされている方も数名いらっしゃるが、現在は1名のみ。本人から希望があれば、家族との電話連絡を取り次ぐこともある。ご家族様から手紙が届いたりした際は、必ず本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りや、花などを見えるところに配置したりしている。空調もその日の天気に合わせて使用している。空気清浄機や加湿器も利用している。換気を定期的に行っている。	利用者と一緒に季節の飾り物を作り、季節感を出している。食堂では体操やレクリエーションをする他、新聞を読んだり利用者が引く電子ピアノに合わせて歌を唄うなど、楽しく過ごしている。定期的に換気をし居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥に椅子やソファを設置して、色々な場所で寛げる空間づくりを心掛けている。テレビも2箇所を設置し、好きな方を見ていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や小物などをご家族様にお持ちいただき居室内に置けるように工夫をしている。位牌にお水や、お供えをされている方もいる。居室のレイアウトも本人と相談して決めるようにしている。	馴染みの洋服、家具、寝具等を持ちこんでもらい、安全に暮らせるようにしている。職員が毎日掃除を行い、天気の良い日は布団を干す他、1週間に1回、リネンの洗濯を行い気持ち良く過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「便所」「トイレ」など表記を2種類にしている。トイレ内には手すりや可動式のバーが取り付けられている。廊下や共用スペースは邪魔な物がないように整理整頓している。		